

令和7年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立郷原小学校
(郷原中学校区)

全国平均値との差

	国語	算数	理科
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+6.0	+5.0	
令和8年度	-	-	-
令和7年度	+2.2	-1.0	+4.9
令和6年度	+2.3	+2.6	-
令和5年度	+0.8	+0.5	-
令和4年度	-0.6	-5.2	-2.3

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p>国語</p> <p>言葉の特徴や使い方</p> <p>本校 <u>69.0%</u> 全国 <u>66.8%</u> 県 <u>69.0%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎情報と情報との関係付けの仕方、図等による語句と語句の関係の表し方を理解し使うことに課題がある。(設問1二)【情報の扱い方に関する事項】(本校の平均正答率 59%) (全国平均との差-4.1%)</p> <p>◇情報と情報を関係付け、資料や ICT 機器を用いて、自分の考えを表現することに課題がある。</p> <p>改善の方策</p> <p>◎国語科の学習のみならず、他教科の語句を使って、その関係性を図に表したり、言い換えたりする活動を設定する。また、意味調べや読書等を通して、意図的に語彙を獲得できるように指導する。</p> <p>◇語句と語句を線でつないだり、図示したりすることによって情報を整理し、考えをまとめることができるようにする。</p> <p>検証</p> <p>◎標準学力学習状況調査(12月)の【情報の扱い方に関する事項】の項目の正答率の全国平均を上回る。(全年) ◇類似問題(12月)の【読むこと】【情報の扱い方に関する事項】の項目の正答率が目標値を上回る。(目標値:小全国平均, 中3正答率50%)</p>
<p>算数</p> <p>数と計算</p> <p>本校 <u>57.0%</u> 全国 <u>58.0%</u> 県 <u>59.0%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題がある。(設問4(4))【変化と関係】(本校の平均正答率 28.2%) (全国平均との差-12.7%)</p> <p>◎分母が異なる分数を共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。(設問3(2))【数と計算】(本校の平均正答率 20.5%) (全国平均との差-2.5%) (設問3(3))【数と計算】(本校の平均正答率 15.4%) (全国平均との差-19.6%)</p> <p>◇数学的な用語や表現について理解し、順序立てて計算、説明することに課題がある。【数と式】</p> <p>改善の方策</p> <p>◎基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、身近な事象を取り上げ、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにする。</p> <p>◎異分母の共通する単位分数や図や数直線を用いて単位分数を見出す活動を行い、その活動後に思考を整理したり、表現したりする時間を確保する。</p> <p>◇基準となる数を見出し、数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めることができるようにする。</p> <p>検証</p> <p>◎標準学力学習状況調査(12月)の問題形式が短答の項目の正答率の全国平均を上回る。(全年) ◇類似問題(12月)の【数と式】の項目の正答率が目標値を上回る。(目標値:小全国平均, 中3正答率75%)</p>
<p>理科</p> <p>エネルギー</p> <p>地球</p> <p>粒子</p> <p>生命</p> <p>本校 <u>62.0%</u> 全国 <u>57.1%</u> 県 <u>59.0%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎◇乾電池2個のつなぎ方についての特徴を理解することに課題がある。(設問2(4))【エネルギー領域】(本校の平均正答率 51.8%) (全国平均との差 -3.8%)</p> <p>◎◇学習したことを根拠に、粒子が変化した自然事象の理由を予想し、表現することに課題がある。(設問4(3)カ)【粒子領域】(本校の平均正答率 56.4%) (全国平均との差 -3.4%)</p> <p>改善の方策</p> <p>◎◇ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりする等して、学習を通して得た知識の理解を深めていけるようにする。キュービナで様々な問題と出会う機会を多く設定する。また、動画教材も活用する。</p> <p>◎◇学習したことを身近な自然事象と結び付けて考えられるように、単元の導入場面での自然事象との出会わせ方を工夫する。また、粒子に関する学習において、視覚的に捉えにくい自然の事象を絵や図で説明させる等して理解を促し、日常生活との関連付けを重視しながら学習を積み重ねていけるようにする。</p> <p>検証</p> <p>◎◇学年末テストの学級平均 75 点以上の割合 75%以上 (小学校 3~6 学年, 中学校 1~3 学年 3月)</p>

【来年度に向けて】

- 国語科では、標準学力調査において、読むことの項目で全国平均を上回った学年は、6年生であった。また、情報の扱い方に関する事項の項目で全国平均を上回った学年は、2年生と6年生という結果であった。読む力を付けるために、二つの事柄の共通点や相違点を整理したり、「つまり」「例えば」「しかし」等の接続詞を学習の中で意識させたりすることが必要である。また、情報の扱い方に慣れるために、ロイロノート内の思考ツールを活用して情報を分けたり、要点をスライドにまとめたりする活動を取り入れる。
- 算数科では、標準学力調査において、問題形式が短答の項目と数と式の正答率が全国平均を上回った学年は、3年生と6年生だけであった。基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題があるため、実感を伴う活動を増やしていく。授業の中で、数直線やテープ図を書く習慣を付けさせ、基準となる数量がイメージできるように1kgや1mを実際に触れて、身近に感じることができる取組を行っていきたい。また、授業内やチャレンジタイムでキュービナを活用して短答形式の問題に日常的に触れることで、問題を早く正確に解く力を養っていく。
- 理科では、学年末活用テストの学級平均75点以上の割合が75%以上の学年は3年生と5年生であった。全体的に学級の中で学力の差が大きく、学力の底上げが必要となる。全国学力・学習状況調査では、電気のつながり方や粒子の変化といった目に見えにくい概念の理解に課題が見られた。教科書付属のワークテストやキュービナを活用し、引き続き知識の定着を図る。来年度以降も、回路や物質の状態変化等を図やイラストでまとめる活動を行っていく。また、身近な自然事象と理科を関連付ける出会わせ方を工夫し、児童が「なぜ？」と感ずるような日常の疑問を学習に結びつけて予想・表現させていく。